国立国語研究所学術情報リポジトリ

発話がもたらす対人効果の研究（2）：発話機能を軸とした分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): readers' column, function of utterance, interpersonal effect 作成者: 尾崎, 喜光, OZAKI, Yoshimitsu メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001363

国立国語研究所研究報告集 17（1996）

発話がもたらす対人効果の研究(2)

― 発話機能を軸とした分析 ―

尾　崎　喜　光

OZAKI Yoshimitsu: A Study of the Interpersonal Effects of Utterances (2) : An Analysis from the Viewpoint of Utterance Function

要旨：本研究は，従来の社会言語学的研究ではあまり注目されて来なかった発話がもたらす対人的影響・対人効果という側面について，新聞の投書欄をデータとして用い，日常生活におけるその一端を明らかにすることを目的とする。前稿では，読者に対するそうした投書行動をメタコミュニケーション行動ととらえそれ自体をまず分析したが，本稿では引き続き，「発話」と「効果」の関係そのものについて，発話の持つ機能とそれがもたらす対人効果の方向性（プラス的かマイナス的か）という観点から分析を行なった。その結果次のことが明らかになった。

＜行動依頼＞＜行動命令＞＜評価表明＞＜判断表明＞は，対人効果の方向性には特に片寄りが認められず，プラス効果・マイナス効果いずれも普通にありうることがわかった。

それに対し＜行動勧め＞＜挨拶＞＜感謝＞＜謝罪＞（＜感想表明＞）は，かなりプラス効果に傾くことがわかった。しかし，マイナス効果も全く無いわけではないこともまたわかった。

また＜呼びかけ＞は，効果が強い場合にはマイナス効果にいくぶん傾くことがわかった。
キーワード：投書　発話機能　対人効果

Abstract: In this study we analyze the interpersonal effects of utterances, which have not received much attention in Japanese sociolinguistics, based on data from readers' columns (letters to the editor). In a previous paper, we analyzed the contributions themselves as a type of metacommunication behavior. In this paper, we analyze the relations between utterances and their interpersonal effects, from the viewpoint of functions of utterances and the directions of the effects (that is, positive or negative).

In such functions as 'action-request', 'action-command', 'assessment-statement' and 'judgment-statement', no trend is found in the directions of the effects.

On the other hand, in such functions as 'action-recommendation', 'greeting', 'thanks', 'apology' (and 'impression-statement'), there is a strong tendency towards positive effects, although there are several cases of negative effects.

Finally, there is a tendency toward negative effects for those 'address' function utterances that produce strong effects.
Key words: readers' column, function of utterance, interpersonal effect

1．はじめに

我々が日常生活で他者に対して行なう発話は，単に情報伝達という機能を果たしてそこで終了するのではなく，発話の結果として，話し相手へ，脇で聞いている第三者へ，あるいは場合によっては話し手自身へと，その発話の関係者にさまざまな波紋を広げて行くものである。

従来の社会言語学的研究では発話の生成の側面に関心が集中し，ひとたび生成された発話が関係者にどのような影響をもたらしていくかという対人的な効果・影響という側面には，あまり注目してこなかった。

本研究は，実際に生成された言語表現を踏まえつつも，その先にある対人効果という側面にまで射程を広げ分析しようと試みるものである。

最終的な研究対象は我々の日常生活全般ということになるが，まずは「発話」と「対人効果」というデータをペアで比較的容易に，しかもできるだけバラエティに富む形で得られそうなメディアということから，新聞投書欄を利用した。すなわち，新聞投書欄の中で，発話およびそれがもたらした対人関係上の効果について比較的明示的に書かれたものをデータとして収集したのである。典型的には，「××した時，○○さんから＜……＞と言われて△△だった。」という発言が含まれている投書を収集したわけである。

日常生活においては対人的インパクトがさほど大きくない発話も当然普通に行なわれているわけであるが，投書から得られるデータは，投書を通じて読者と効果を分かちあいたいと願うほどインパクトの強いものであると言える。また，いかなる内容の投書を採択するかという編集者側の方針も，得られるデータに片寄りをもたらす。[注] ここで得られたデータは，こうした提供者・採択者の選択のプロセスを経たものであり，従って日常の言語生活の縮図を現わしているわけではなく，かなり片寄りのあるデータである。この点については尾崎喜光（1995 a；以下「前稿」）でも既に述べたとおりである。

しかし，そうした制約が伴うデータであるということは認めつつも，そこで語られていることがらも確かに現実の一部であること，そして「発話」と「対人効果」のペアを比較的容易に得やすいという利点から，研究の出発点

として，まずはこうしたデータを用いたわけである。

なお，「対人効果」の中にもいろいろなレベル・側面がありうる。例えば，他者に対しある事態を認知させたり情報の追加や修正を加えるというような認知的レベルでの効果，他者に対し心理的変化を喚起させるような情緒的レベルでの効果，そうした効果を通して他者に対し具体的行動を起こさせるような実質行動レベルでの効果，などが考えられる。本研究では，これらのうち，日常のダイナミックな対人関係に最も中心的・本質的に関係があると考えられる情緒的レベルの効果に焦点を当て，この種のデータを収集した。

さて前稿では，発話の対人的効果を話題にした新聞投書欄への投書行動そのものについて，それをメタコミュニケーション行動ととらえ，投稿者の属性，投稿者と発話者の関係，発話者の属性，効果先，効果の種類などの観点から，この種の言語行動の傾向性を見てきた。いわば収集したデータの外枠を分析したわけである。本稿では，投書された内容そのもの，すなわち「発話」とその「対人効果」の関係そのものについて，発話機能と対人効果の関係という側面から分析を試みようとするものである。

2．データについて

2.1.　本稿で分析の対象とするデータの範囲

データは，『朝日新聞』(東京本社)(1985年1月～1993年12月までの9年間)の投書欄，すなわち「声」「ちょっとひとこと」「小さなかけ橋」「お茶の間発」「読者から」から収集した。得られた投書数は381である。ただし1つの投書に2つ以上のケースが書かれているものもあり，データ数は419である。

ケースによっては，2つ以上の焦点になる発話が1つの効果を生んだと見られるものもある（複数人による複数発話が1つの効果；間(ま)や他者の発話により不連続になった一人の人物による複数発話が1つの効果)。こうしたデータは分析が複雑になるため本稿ではひとまず分析の対象から除外した（データ数は330例に絞られる)。さらに，1つの発話が2つ以上の焦点となる文から構成されていたり，0文（つまり無言）から構成されている場合もここで

は分析の対象から除外し，１つの発話が１つの焦点となる文から構成される（多くの場合は１発話１文１効果），分析が比較的容易なケースのみを対象とする。対象となるデータ数は結局226例である。

2.2. データの基本的属性

226例のデータの基本的属性は次のとおりである。

①投稿者の属性

・投稿者数（投書数）：213。

・性　別：男性46（21.6%），女性159（74.6%），不詳8（3.8%）。

・年代別：0代1（0.5%），　10代10（4.7%），　20代38（17.8%），
30代51（23.9%），40代42（19.7%），50代29（13.6%），
60代29（13.6%），70代12（5.6%），　不詳1（0.5%）。

②発話者の属性等（性別・年代別は「？」付きも含む）

・発話者数：226。

・性　別：男性92（40.7%），女性78（34.5%），不詳・混性56（24.8%）。

・年代別：0代7（3.1%），　10代19（8.4%），　20代10（4.4%），
30代6（2.7%），　40代6（2.7%），　50代9（4.0%），
60代3（1.3%），　70代以上5(2.2%)，若年39（17.3%），
中年16（7.1%），　高年14（6.2%），　不詳92（40.7%）。

・投稿者との関係：投稿者本人18（8.0%），投稿者以外208（92.0%）。

③投稿者の立場

話し手18(8.0%)，相手(の一人)133(58.8%)，第三者(伝聞者を含む)73（32.3%），相手か第三者2（0.9%）。

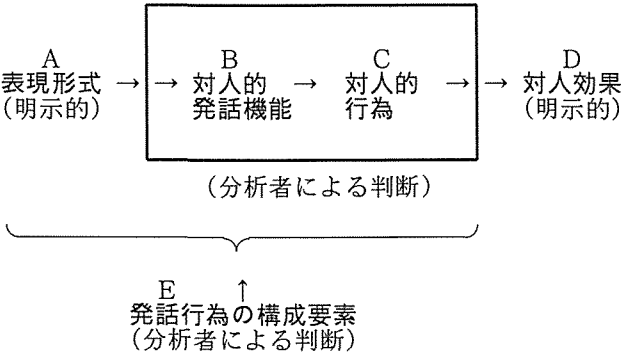
①③については，前稿で報告したオリジナルデータの分布と大きな違いはない。②についても，集計方法が前稿と異なるため簡単に比較しにくいが，やはり大きな違いはないと思われる。すなわち，基本的属性の点からは，ほぼオリジナルデータの縮図と見なすことができる。

3．分析

3.1.　分析の枠組み

発話が対人効果をもたらすプロセスは次のようなものであると考えられる。

まず，ある意味内容を持った＜表現形式＞（発話）が生成される（下図のAの段階）。その発話は，単に述べられるだけではなく，聞き手に対して何らかの＜対人的発話機能＞を生成しながら述べられる（Bの段階）。そしてそれは，ことばを越えた何らかの＜対人的行為＞となる（Cの段階）。その行為が，相手や第三者や話し手自身に対し何らかの＜対人効果＞をもたらすことになる（Dの段階）。



	A		B		C		D
例）	コノ傘使ッテクダサイ。	→	勧め	→	援助	→	ありがたさ

E：雨に降られて困っていた時［場面］，通りすがりの関係の人物から［関係］，（通常は声をかけられることがないのに）声をかけられ［接触］，その人物の傘を持って行くことを勧められた［内容］。【例えば，雨が降っていても相手が傘を持っていて困っていない場合［場面］，発話者と相手が家族関係にある場合［関係・接触］，日傘を持って行くことを勧められた場合［内容］には，このような効果を生む可能性は小さいものと考えられる】

しかし，本データに観察されるような比較的大きな対人効果がもたらされたのは，その発話行為が，被効果者が持っている基準となんらかの点で異なって発話されたためであると考えられる。いかなる点に問題があったかを考えるにあたっては，<発話行為の構成要素>（図のE）に分けてチェックするのが有効であると考える（構成要素については杉戸清樹（1994）による日本語母語話者と日本語非母語話者との誤解のメカニズム解明のための分析枠組みを参考にした）。すなわち，［メッセージ内容］［言語行動類型］［言語形式］［発話の調子］［言語コード］［発話主体］［発話相手］［発話主体と発話相手の関係］［場面・状況］［媒体］［言語接触そのもの］［その他］という構成要素に分け，当該の発話においてこれらのうち何が問題であったため大きな効果がもたらされたかを考える。

以上のA～Eに注目しながら分析するのが，今回の分析の枠組みである。

なお，A～Eのうち，データの中で明示的なのはAとDである。この部分の確かさは少なからず保証されている（ただしこれとても投稿者や編集者のフィルターが入っている可能性があることには注意を要する）。

それに対してB（より厳密にはA→B），C（より厳密にはB→C），Eは，今回のデータの中では多くの場合明示されておらず，分析者による判断が介入し客観性が低下してくる部分である。しかし，分析者も日本語社会で生活しており日本語の語用論的ルールをかなりの程度共有していると考えられること，また投書の文面から背景的情報もある程度得ることができることから，分析者の判断にも少なからず妥当性があるものと判断される。例えば，ある状況で発せられた「コノ傘使ッテクダサイ」という発話（A）は「勧め」という対人発話機能を持っている（B）と判断すること，それは「援助」という対人的行為（C）をなしていると判断すること，そしてそれが「ありがたさ」いう言葉で明示される効果を生んだひとつの理由は「通りすがりの関係」という［発話主体と発話相手の関係］のもとで発話されたためであると判断することは，それほど無理の無いことと思われる。ただし全ての事例がこのようにすっきりと割り切れるわけでもなく，分類が難しく今後修正が必要と

なる部分もあろうかと思うが，現段階での判断を一応妥当性のあるものと考え，分析を進めることとする。

3.2. 本稿での分析の視点

以上に述べたA～Eのうち，いずれかを軸にして分析を進めることが可能である。(なおAとDは，生データのままではバラエティが多過ぎ分析しにくいので，オリジナルデータから離れ過ぎない程度に抽象化して分類する必要がある)

①<対人的発話機能>（B）を軸とした分析

事例に現われた<表現形式>がいかなる<対人的発話機能>を持つかをまず分類し，各<対人的発話機能>が誰に対しいかなる<対人効果>をもたらすかその傾向性を分析する。その際，<発話行為の構成要素>のうち何が通常と異なっていたかにも注目する。なお，<対人的発話機能>と<対人効果>の間に<対人的行為>というステップを入れるべきではあるが，まだカテゴリーの数が多過ぎ(＝各カテゴリーに入る事例数が少なくなる)，さらに絞り込むか構成要素に分解するなどの作業が必要であるため，現段階ではここはスキップすることになる。

②<対人的行為>（C）を軸とした分析

分析者により判断された各<対人的行為>が，いかなる<対人的発話機能>により実現されるか(その<言語形式>はどのようなものであるか)，それはまたいかなる<対人効果>をもたらすかについてその傾向性を分析する。その際，<発話行為の構成要素>のうち何が通常と異なっていたかにも注目する。

③<対人効果>（D）を軸とした分析

ある種の<対人効果>はいかなる<対人的行為>により実現されるか，それが発話によってもたらされる場合にはいかなる<対人的発話機能>を持つ発話により実現されるか（その<言語形式>はどのようなものであるか）についてその傾向性を分析する。その際，<発話行為の構成要素>のうち何が通

常と異なっていたかにも注目する。ただし，軸とする＜対人効果＞のカテゴリーの数がまだ多過ぎ(＝各カテゴリーに入る事例数が少なくなる)，さらに絞り込むか構成要素に分解するなどの作業が必要であるため，現段階では「効果の方向性」(プラス効果か，マイナス効果，中立効果か)という点からの分析になる。

④＜発話行為の構成要素＞（E）を軸とした分析

＜発話行為の構成要素＞のうち通常と異なっているとして問題にされる傾向が強いものはどれか，そしてそれがどのように通常と異なる時に問題とされるか，それはいかなる＜対人効果＞をもたらす傾向があるか，といったことについて，＜対人的発話機能＞や＜対人的行為＞と関連づけて分析する。

以上のうち④については尾崎喜光(1995 b)で報告した。ただし＜対人的発話機能＞や＜対人的行為＞との関連からの分析はまだ行なっていない。

②③については，すでに言及したように，軸となる＜対人的行為＞＜対人効果＞の整理がさらに必要と考えられるので，これらは今後の課題とする。

本稿では①の視点からの分析を行なう。ただし＜対人効果＞については，③に述べたようにまだ分析に用いにくい段階にあるので，本稿では主として「効果の方向性」(プラスの効果かマイナスの効果か中立的な効果か)という点から見ていくこととし，＜対人効果＞の内容そのものと関連づけての本格的な分析は，今後の課題とする。

3.3.＜対人的発話機能＞そのものについて

得られたデータに観察される発話について，その発話を通じて他者に対し何をなそうとしているかという対人行動論的観点から発話の機能分類をしたところ，次ページ以下のようであった(□で囲ったもの)。小さな数字は度数である。表をすっきりさせるため度数の小さなものはここでは省略してある。太い□で囲ったものは，3.5.で分析の対象とする機能である。

本データの発話は全て対人行動的発話であるが，日常生活では非対人行動

的発話（独り言など）が，発話者が意図することなく対人効果をもたらす場合もあろう。

対人行動的発話の中にも，たまたま本データには認められなかったというものもあろう。例えば1.3.3.1.の「物品提供」に対応する「物品要求」などがそれである。こうしたものを探し出し，効果がもたらされることが少ない発話機能（より厳密には投書欄に現われにくい発話機能）にはどのようなものがあるか，ということを明らかにすることも意味のある作業かと思う。しかし，今の例のように，パラレルな関係から体系の穴を埋めていく作業は比較的容易であるが，パラレルな関係にないものについてまで欠無く完璧に行なうことは，現在の筆者には手には余る作業である。また今回の分析では，いかなる発話機能がいかなる対人効果を産みやすいかという全般的な傾向性についてまず見てみるため，比較的頻度数の多い機能のみを分析の対象にとして取り上げる。そこで本稿では，分析対象とするデータから帰納された分類の部分体系を示すにとどめることにする。

1.直接的働きかけ行動[149]〔要求や勧誘や提供などをする〕
- 1.1.要求[75]〔相手に何かさせる〕
  - 1.1.1.行動[47]
    - 1.1.1.1. 行動要求 [29]（行動依頼 [16]，行動命令 [13]）
    - 1.1.1.2. 行動勧め [18]
  - 1.1.2.情報[26]
    - 1.1.2.1. 情報要求 [6]
    - 1.1.2.2. 説明要求 [6]
    - 1.1.2.3. 確認要求 [7]
    - 1.1.2.4. 同意要求 [7]
- 1.2.勧誘[3]〔自分の行動に相手を巻き込む〕
  - 1.2.1.行動[3]
    - 1.2.1.1. 行動勧誘 [3]

1.3.提供[27]〔自分が何かする〕

1.3.1.行動[8]

1.3.1.1. 行動提供 [5]

1.3.1.2. 行動要求受入れ拒否 [3]

1.3.2.情報[17]

1.3.2.1. 情報提供 [8]（教示 [4]，事実報告 [4]）

1.3.2.2. 説明提供 [9]

1.3.3.物品[2]

1.3.3.1. 物品提供 [2]

1.4.調整[45]〔自分と相手との調整をする〕

1.4.1. 対人関係調整 [45]（呼びかけ [11]，挨拶 [9]，感謝 [16]，謝罪 [6]，応答 [3]）

2.間接的働きかけ行動[62]〔心理的表明をする〕

2.1. 評価表明 [20]（評価表明 [17]，慰労表明 [3]）

2.2. 認識表明 [7]

2.3. 判断表明 [22]

2.4. 感想表明 [13]

2.5. 意志表明 [5]

2.6. 事実表明 [3]

2.7. 希望表明 [2]

3.4. ＜対人効果＞そのものについて

＜対人的発話機能＞に対して従属変数となる＜対人効果＞そのものの基本的属性および効果の種類（方向性）は，次のようであった。

①効果先（効果先が複数である場合もある）

相手 164（67.8%），第三者 67（27.7%），話し手自身 11（4.5%）。

②効果先と投稿者との関係

相手としての＜投稿者＞136（58.6%）

話し手としての＜投稿者＞10（4.3%）

第三者としての＜投稿者＞59（25.4%）

相手としての＜投稿者以外＞26（11.2%）

話し手としての＜投稿者以外＞0（0.0%）

第三者としての＜投稿者以外＞1（0.4%）

③言語行動以外で効果をもたらしたもの（“行動が効果をもたらしたと判断される事例数“／”行動の存在が確認できる事例数”）

パラ言語（33/34），非言語（29/30），実質行動（46/50）。言語行動のみが効果128。

④効果の種類

実際の効果は複合的であり，また言葉で十分表現しきれないことも少なくないであろう。しかし，客観的な分析を確保するために，情報の限界は認めつつも，文面に明示された表現を手がかりに効果の分類を行なう必要がある。何等かの意味で「プラス」であるか「マイナス」であるか「中立」であるかという点からまず大分類し，さらに類似した表現を整理したところ次のようになった。頻度の高い効果とその度数を掲げるが，ラベル（および整理）については暫定的であり，今後再考の余地がある。

▲プラスの効果(129)：うれしさ(36)，感動(27)，ありがたさ(15)，温まり(12)，なごみ(10)，安堵(5)，感激(5)，爽やかさ(4)

▲マイナスの効果(79)：不愉快(16)，驚き［「あきれ」等］(8)，恐れ(6)，立腹(4)，恥かしさ(3)

▲中立の効果(10)：驚き［「態度変化」等］(3)

▲マイナス～中立の効果(7)

▲複合的な効果(5)

前稿で報告したオリジナルデータと比べ分布はおおむね同じである。ただし④については，オリジナルデータよりも「プラスの効果」に傾く（オリジナルデータではプラスとマイナスが半々程度）。ひとつの原因として，ほとん

どの場合マイナス効果をもたらした0文（つまり無言）が今回のデータに含まれていないことが考えられる。

3.5. ＜対人的発話機能＞と＜対人効果＞の関係について

分類の結果を**付表**として本稿の末尾に掲げる。

表の見方などについてコメントを加えておく。

この表は，左から3つ目の項目である「対人的発話機能」によりソートされている。3.3.で示した体系に出てくる順番で並べてある。

発話そのものは「主部内容」と「述部内容」に分析し，その発話が，何についてどうだと言っているのかを簡潔に示した。このうち「主部内容」は，データに明示されておらず分析者による補いであるケースが少なくない。「述部内容」も分析者による要約や周辺的情報の切り捨てが含まれている。

「対人的発話機能」は3.3.に示した分類である。判断に多少迷いがあるものには「？」が付いている。

「述部末尾形式」は，「対人的発話機能」が具体的にどのような形式により表現されたか，述部の末尾の部分を示したものである。テンス・アスペクト・ヴォイス・認め・待遇・終助詞などもできるだけオリジナルのままを示し，もとの形式が分かるようにした。なお直前の品詞は，［名］（名詞），［動］（動詞）などのように，［　］で括って略称で示してある（活用形の表示は基本的に省略）。＜方言＞などは，語形に対する注記である。「～」は省略を意味する。「？」は質問文であることを意味する。分析者の判断の迷いではない。

「対者行為の方向性」は，その発話を通しての＜対人的行為＞（3.1.のCに当る局面）が，主として相手に対して「友好的」な行為であるのか（○印），「対立的」な行為であるのか（×印），「中立的」な行為であるのか（△印）を，分析者の判断により示した。直接の話し相手に対してと，脇にいる第三者に対しての方向性が異なる場合もある。

「効果先」は，「相手」か「第三者」か「話し手」の区別を示す。複数の立場の人物に効果がもたらされていることが明示されているデータも時にはあ

る（例えば相手と第三者）。次に述べる「効果（抽象）」が，効果先により異なる場合は，「①，②」と区別して対応関係が分かるように示した。

「効果（抽象）」は，生データを分析者の判断で抽象化し，ラベルを貼ったものである。まだバラエティが多過ぎるため本稿では分析に用いないが，現段階でどのように整理されているかを示した。今後さらにカテゴリの数を絞り込んだり，ラベルの妥当性を再検討する必要がある項目である。

「効果（＋—）」は，「効果（抽象）」が対人的にどういう方向性を持つものであるかを，「プラス（＋）」「マイナス（—）」「三角（△）［＝中立的］」の3つのカテゴリで示した。

「非言語効果」「実質行動効果」は，それらが存在することが文面から明らかであり，かつ＜対人効果＞に寄与していると分析者により判断された場合に○印を付けた。

それ以下右側の12項目は，＜発話行為の構成要素＞のうち，何が＜対人効果＞に寄与していたかを，これも分析者の判断により示したものである。これらの項目もまだ再考の余地がありそうである。

「内容」はメッセージ内容，「行動」は言語行動類型，「形式」は言語形式，「調子」は発話の調子，「コー」は言語コード，「主体」は発話主体，「相手」は発話相手，「関係」は発話主体と発話相手との関係，「場面」は場面・状況，「媒体」は媒体，「接触」は言語接触そのもの，「他」はその他である。「調子」は，どのような調子の発話であるかが明示され，かつそれが効果をもたらしたと判断された場合にのみ○印が付く。「恐らくこのような調子であろう」といったような“読み”は，ここでは行なっていない。

これらの項目に○印が付くというのはどのようなことであるかについては，次のとおりである。「…」の右側は，効果先として最もポピュラーな＜聞き手＞を視点とした記述である。

①＜メッセージ内容＞…コンナ内容ヲ言ワレタタメニ

②＜言語行動類型＞…コンナ言イ方ヲサレタタメニ［例：依頼→命令，依頼→認識表明，感謝→慰労，謝罪→説明要求］

③<言語形式>…コンナ言イ方ヲサレタタメニ［例：オバアチャン］

④<発話の調子>…コンナ声ノ調子デ言ワレタタメニ

⑤<言語コード>…コンナ言語体系デ言ワレタタメニ

⑥<発話主体>（その人自身の属性［性別・年齢・職業・心身特徴・経験・日常の言動］）…コンナ人カラ言ワレタタメニ

⑦<発話相手>（同上）…コンナ人ニ対シテ言ワレタタメニ

⑧<発話主体と発話相手との関係>…コンナ関係ノ相手カラ言ワレタタメニ

⑨<場面・状況>…コンナ場面ヤ状況デ言ワレタタメニ

⑩<媒体>…コンナ媒体デ言ワレタタメニ［例：電話→直接］

⑪<言語接触そのもの>…ソモソモ声ヲカケラレタタメニ

⑫<その他>…時代，タイミング，頻度，など。

このように整理されたデータをもとに，<対人的発話機能>を分析の軸としながら，<対人効果>との間にいかなる傾向性が認められるか観察していくことにする。ただし，<対人効果>の側については，「効果（抽象）」にまだ再考の余地があるので，本稿では効果の方向性（「効果（＋—）」）との関連を見ていくにとどめる。また，<対人的発話機能>の側についても，事例数が多く傾向性がある程度見やすいものについてのみ見ていくことにする。すなわち，<行動依頼><行動命令><行動勧め><挨拶><感謝><呼びかけ><謝罪><評価表明><判断表明><感想表明>に限定して見ていくことにする。

3.5.1. <行動依頼>と<対人効果>の関係

事例数は16。内訳は，プラス9，マイナス3，マイナス～中立3，マイナス&中立（2種の効果）1であった。ややプラスに傾くが，マイナス～中立などを考慮すると，決定的な片寄りと言うほどではない。プラス・マイナスいずれも普通にありうることである。

プラス効果は，相手や第三者の利益のために相手に行動を起こさせること

を＜依頼＞の形で表現するというのが目立つようである（通し番号2，3，5，6，8，11)。＜依頼＞というと典型的には，発話者の利益のために相手に自発的に行動を起こさせるという事態が想起されるが，日常の対人効果（プラス）という点からは，他者の利益のために相手に行動を起こさせるという事態の方がより重要と言えそうである。

なお，＜依頼＞によりプラス効果がもたらされたのは，特に［内容］［場面］［接触］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。例をひとつ掲げる。〈　〉内の数字は付表の通し番号である。「→」の左側の部分が発話の引用，右側が効果先および具体的な効果の引用である。それぞれ下線が，焦点であると判断された部分である。

例1）〈3〉状況：相手としての投稿者がバスを降りようとして料金を800円分多く入れてしまった時バスの運転手が言った。

「『…乗客の皆さんから，料金の前払いをいただいて，おつりをあげるから待っていてください』」→相手（投稿者）「寒風の中を歩きながら，心がほかほかと温かくなった。」（声，1990.03.03）

マイナス効果は，自分の損益がさらに進行するのを阻止するのために相手の行動を非難しやめさせることを＜依頼＞の形で表現するというのが目立つ（通し番号12, 13, 14, 15, 16)。そしてそのような効果がもたらされたのは，特に［内容］［調子］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。

例2）〈12〉状況：相手としての投稿者が寿司屋に入り，ネタの書かれたビラを指で差しながら注文していた時。

「『指差して注文しないでくれ。不愉快になるから』」→相手（投稿者）「一瞬あ然…」「こちらも不愉快になったので店を出ました。」（お茶の間発，1991.09.10）

3.5.2.　＜行動命令＞と＜対人効果＞の関係

事例数は13。内訳は，プラス7，マイナス6であった。効果の方向性には

大きな片寄りは認められず，プラス・マイナスいずれも普通にありうることがわかる。

プラス効果は，相手や第三者の利益のために相手に行動を起こさせることを＜命令＞の形で表現するというのが目立つようである（通し番号17，21，22，23，24）。先の＜依頼＞と同様，＜命令＞も典型的には，発話者の利益のために発話者の権威により相手に行動を起こさせるという事態が想起されるが，日常の対人効果（プラス）という点からは，他者の利益のために相手に行動を起こさせるという事態の方がより重要と言えそうである。

なお，＜命令＞によりこのような効果がもたらされたのは，特に［内容］［関係］［場面］［接触］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。

例3）〈17〉状況：投稿者が自転車で転んで大けがをしたため家族の生活が一変した。早朝と夜遅くまでの家事を長期間続けてもらった娘に「ごめんなさいね」と言った時。

「『それは言わないことね』」→相手（投稿者）「本当にうれしかった。」（声，1989.04.24）

マイナス効果は，これも＜依頼＞と同様，自分の損益がさらに進行するのを阻止したり任務を遂行するのために相手の行動を非難しやめさせることを＜命令＞の形で表現するというのがやや目立つ（通し番号25，26，27，28，29）。そのような効果がもたらされたのは，特に［内容］［調子］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。

例4）〈28〉状況：何かの競技を終えた女子高校生とおぼしき姿が大勢見える市営グラウンドから，スピーカーに乗った大きな声を投稿者が聞いた。

「『おまえら，早く帰れ。何してんだ』」→第三者（投稿者）「…一瞬わが耳を疑った。…なんとも乱暴な，汚いしゃべり方ではないか。」（声，1988.08.25）

3.5.3. ＜行動勧め＞と＜対人効果＞の関係

事例数は18。内訳は，プラス15，マイナス1，中立1，プラス&プラス（2種の効果）1であり，プラスの方向に大きく傾く。これは，相手の利益のために自分の所有物や権利を分与したり貸与したりという分与貸与行動が＜行動勧め＞として表現される傾向があるためである（通し番号30，31，32，33，35，38，39，40，42，43，44）。また，こうした効果がもたらされたのは，特に［内容］［関係］［場面］［接触］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。なお，＜勧め＞に伴う実質行動としての分与貸与行動そのものも，ほとんどの場合同時に効果をもたらしているものと考えられる。

例5）〈30〉状況：投稿者が井の頭公園へ車で遊びに行った。公園の駐車場が空くのを待っていた時，乗せていた子供が自分の孫くらいでかわいいと思った初老の男性が近づいてきて言った。

「『よかったらうちの駐車場を使いなさい』」→相手（投稿者）「このご親切な方に改めて感謝しました。」（ちょっとひとこと，1985.04.24）

＜勧め＞によるマイナス効果というのは事例が少ないが，全くないわけではない。たとえ相手の利益を思っての＜勧め＞であっても，それが相手にとって迷惑になる場合にはマイナスとなる。

例6）〈45〉状況：結婚して六年目になるが子どもができない投稿者が，子供が出来たかと聞かれ，さらに追い打ちをかけるようなアドバイスを受けた。

「『病院へ行って検査したら？』」→相手（投稿者）「『余計なお世話だ』と心の中でつぶやきながら…何げない言葉や態度が人を傷つけやすく，プレッシャーを与えてしまうこともあるのだと自覚すべきである。」（声，1993.06.16）

3.5.4. ＜挨拶＞と＜対人効果＞の関係

事例数は9。内訳は，プラス8，マイナス1であり，プラスの方向への大きな片寄りが認められる。＜挨拶＞により当事者間にマイナス効果がもたら

されるということは基本的にはなく，もたらされるとすればプラス効果ということである。こうした効果がもたらされたのは，特に［関係］［場面］［接触］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。

例７）〈104〉状況：投稿者が伊豆の田舎に行って学校の近くの道を歩いていた。下校する15人程度の小学生の集団とすれ違った時に一人ひとりから言われた。

「『こんにちは』」→相手（投稿者）「私の方もうれしくなって…その日は一日中すがすがしく，気持ちがよかった。」（声，1993.09.28）

なお，マイナス効果も全くないわけではなく，表現形式としては＜挨拶＞だが真の行動意図はからかいである場合などがそれである。

例８）〈112〉状況：投稿者が外国人の夫（ニュージーランド出身）と道を歩いていて小学生たちとすれちがった時。

「『ハロー，ハロー』」→第三者（投稿者：妻）「こんな不愉快な経験を…」（声，1993.04.04）

3.5.5.　＜感謝＞と＜対人効果＞の関係

事例数は16。内訳は，プラス15，マイナス～中立１であり，これもプラスの方向への大きな片寄りが認められる。＜感謝＞により当事者間にマイナス効果がもたらされるということも基本的にはなく，もたらされるとすればプラス効果ということである。こうした効果がもたらされたのは，特に［行動（言語行動類型）］［主体］［場面］［接触］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。［行動］が通常と異なるというのは，現代の日本語社会で＜感謝＞が義務的には要求されない（＝言語行動がゼロであってかまわない）にもかかわらず＜感謝＞をしたというものである。

例９）〈124〉状況：JR御茶ノ水駅ホームで，駅員と数人の通りすがりの男性が，車いすの男性が階段を上がるのを手伝っていた。投稿者も駅員に申し出たものの女性なので断わられた。しかし後からついて行った。階段を上がったところで駅員が手伝った人（投稿者も半ば含む）に言った。

「『大変ありがとうございました』」→相手？，第三者？（投稿者）「私にもお礼をいわれたみたいで，とてもうれしくなった。」（声，1992.09.07）

なお，マイナス的な効果も全くないわけではなく，例えば，相手の＜感謝＞行動が，自分に日頃＜感謝＞行動がないことを気付かせ，自分自身を恥かしく思わせる，などといった場合がそれである。

例10）〈128〉状況：歯磨きを終えて洗面所の蛇口をしめ忘れた娘に対して，投稿者が「また！　水を流しっぱなしよ！」とどなって注意した時。

「『あ！　お母さん，教えてくれてありがとう』」→相手（投稿者）「まだ小一の娘だが，子に教えられるとはこういうことか，と自分が恥ずかしくなった。」（声，1989.01.17）

3.5.6.　＜呼びかけ＞と＜対人効果＞の関係

事例数は11。内訳は，プラス3，マイナス6，マイナス～中立1，プラス＆マイナス（2種の効果）1であった。マイナス効果への片寄りがいくぶん認められる。日常生活で＜呼びかけ＞という言語行動により大きな対人効果がもたらされる場合は，プラス効果よりもマイナス効果の方がどちらかと言えば多いということを反映しているのかもしれない。

マイナス効果で多いのは，年配の他人に対する呼称である（通し番号135，136，137，138）。

マイナス効果は，［形式］［相手］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。つまり，こういう属性や呼称基準を持っている相手に対しこういう形式で呼びかけたためにマイナス効果がもたらされた，というものが多い。

例11）〈135〉状況：相手としての投稿者がバス停にいた時，通りすがりの男性から本屋が近くにないか尋ねられた。

「『おばあさん，この辺に大きな本屋があるけ』」（甲州弁？）→相手

（投稿者）【無し；「実は向かい側に…」】（声，1991.09.22）

事例数は少なくなるが，プラス効果についても，［形式］［相手］において通常と異なっていたためという傾向性が見られそうである。次に掲げる例は，「おばあちゃん」と呼ばれるのが一般的である状況において，「姓＋さん」で呼ばれたことによるプラス効果の例である。先のマイナス効果で多かった年配の他人に対する呼称と対照的なケースである。

例12）〈129〉状況：投稿者の母が病院に入院していた時，ある若い看護婦が母親に呼びかけた。

「『田中さん』」→第三者（投稿者）「『ああ，この人は母を一個の人格として認めていてくれるんだな』と思ったのである。」（声，1989.02.23）

3.5.7. ＜謝罪＞と＜対人効果＞の関係

事例数は6。内訳は，プラス4，マイナス1，プラス&プラス（2種の効果）1であり，プラス効果への片寄りが認められる。＜謝罪＞により当事者間にマイナス効果がもたらされるということは基本的にはなく，もたらされるとすればプラス効果ということである。こうした効果がもたらされたのは，特に［場面］［接触］において通常と異なっていたためという傾向性が見られる。

例13）〈141〉状況：投稿者がコピーをとりにコンビニエンスストアに行った時，先客がいたので少し離れた所で待っていた。五，六分たって，コピーを終えた先客が投稿者に言った。

「『終わりました。お待たせしてすみません』」→相手（投稿者）「それが何ともいえずいい感じで，こちらも自然に顔がほころびました。…相手を思いやるちょっとした言葉をかけあうことで，その場が何と和やかになるでしょう。」（声，1993.02.07）

なお，マイナス効果も全くないわけではなく，弱者の謝罪を脇で聞いていて痛々しく感じる，などといった場合がそれである。

例14)〈144〉状況：投稿者がバスを待っていた時，前を通り過ぎようとした足の不自由な若い女性が転んだ。その瞬間，持っていた杖とバッグの中身が地面に散らばった。反対側から来たおばあさんがそれを拾い出し，拾ってあげなければと思いつつできずにいた投稿者もようやく一歩前に出た時，転んだ女性が投稿者やおばあさんに繰り返し言った。

「『ごめんなさい，ごめんなさい』」→相手（投稿者）「とても痛々しかった。…でもあの女性のようにいつも周囲に気を使い，人の目を気にして，落ちつかない日々を過ごしている人もいるだろう。」（声，1993.10.16）

3.5.8. ＜評価表明＞と＜対人効果＞の関係

事例数は17。内訳は，プラス9，マイナス8であり，大きな片寄りは認められない。プラス・マイナスいずれも普通にありうることがわかる。評価がプラス・マイナス両方ありうるので当然の結果ではある。

プラス効果は，主部内容が相手や相手に関することがらであり，述部内容がそれに対する肯定的評価によりもたらされている。すなわち［内容］が通常と異なっているものである。その他，［相手］［場面］が通常と異なっていたためという傾向性も見られる。

例15)〈157〉状況：投稿者の娘が小学校三年生の時（約30年前）のこと。転校してまだ間もない頃，友達もできず学校にもなじめずにいた時，前の学校では中くらいの成績だった投稿者の娘が，国語の書き取りの時間に先生から褒められた。

「『字がきれい』」【分析者注：そのままの発話ではない可能性あり】→相手（投稿者の娘）「『でも，今度の学校なら，私だってやればできるかもしれない』…自発的に勉強するようになりました。…中学ではトップクラス。」（小さなかけ橋，1987.02.06）

マイナス効果は，相手や相手に関することがらに対する否定的評価によってもたらされる傾向性が見られる（通し番号160，161，162，163，164，165）。

やはり［内容］が効果をもたらしている。

例16）〈161〉状況：投稿者が小学生の頃，運動が苦手で跳び箱を跳べなかった時に担任から言われた。

「『あんたは何をやらせてもダメ』」→相手（投稿者）「以来すっかりスポーツというものから遠ざかってしまった。」（声，1989.06.17）

3.5.9. ＜判断表明＞と＜対人効果＞の関係

事例数は22。内訳は，プラス8，マイナス10，中立4であり，効果の方向性には大きな片寄りは認められない。プラス・マイナスいずれも普通にありうることがわかる。

プラス効果は，自分が示した否定的な判断（おもに自己に関することがら）に対し，相手が逆に肯定的な判断を示す場合というのがやや多い（通し番号173，176，178，182）。すなわち［内容］が通常と異なっているのである。

例17）〈182〉状況：双子の子供が部屋中おもちゃを散らかして，どこから片付けようかとせっかちなタイプの投稿者がキイキイしていた時，おっとりタイプの夫が言った。

「『病気で寝ているよりましだよ』」→相手（投稿者）「単純な私は，その言葉で，気持ちを切り替え頑張ってしまう。」（声，1988.12.13）

マイナス効果は，自分が持っている判断と対立する判断を相手が示した場合というのがやや多い（通し番号185，186，191，192）。やはり［内容］が通常と異なっているのである。

例18）〈192〉状況：ボランティア活動での奉仕を日頃から考えていた投稿者が，無理なくやれそうな仕事を近くの大病院がボランティアとして求めていることを市報で読み，さっそく電話してみた。病院側で説明をすると指定した日時にたまたま行けないことを告げた時。

「『そんなに忙しいのなら，それ以上がんばってやって頂くこともありませんから』」→相手（投稿者）「少々がっかりしてしまいました。」（声，1985.03.08）

3.5.10. ＜感想表明＞と＜対人効果＞の関係

事例数は13。内訳は，プラス9，マイナス4であり，ややプラス効果に傾く。

プラス効果は，相手の存在や行動や状態などに対して支持的感想を表明する場合というのがやや多い(通し番号195，196，197，198，199，200)。共感的な支持的感想というものもいくつかある（通し番号195，196，199)。やはり［内容］が通常と異なっているのである。その他，［関係］が通常と異なっているという傾向性もやや見られる。

例19)〈197〉状況：投稿者が会社主催の忘年会に二十分も遅れ，社長のあいさつの途中でこそこそと下座に座った。宴も半ばになり座がにぎわってきた頃，大声で社長に呼びつけられ「遅刻するとは何事ぞ」とカミナリを落とされ，すっかり恐縮して消え入りそうな気持ちになったあとで，付け加えて言われた。

「『あなたがいなかったら寂しいのだ』」→相手（投稿者）「…宴も引けて寒風吹きすさぶ外に出たが，風がさわやかだった。こんなに素晴らしい言葉があっただろうか。…貴重なことを教わった喜びでいっぱいだった。」(声，1985.12.05)

マイナス効果は，事例数が少なく確定的なことは言えないが，相手の行動や状態に対し否定的感想を表明する場合というのがやや多いようである（通し番号206，207)。やはり［内容］が通常と異なっているのである。

例20)〈207〉状況：投稿者が仕事帰りに友だちと連れ立って，結婚した知人の新居に遊びに行った時，そこにいた見知らぬ男性たちが聞こえよがしに言っているのが耳に入った。

「『主婦なのによく，こんなに夜遅くまで出かけていて，だんなは何も言わないな』」→第三者［脇の聞き手？］（投稿者）「…非常に不愉快な思いをした。」(声，1993.03.01)

4．まとめ

以上，収集したデータに事例数が比較的多く見られた10種の対人的発話機能について，それらと対人効果の方向性との間にいかなる傾向性が認められるか観察してきた。

＜行動依頼＞＜行動命令＞＜評価表明＞＜判断表明＞は，対人効果の方向性に特に片寄りが認められず，プラス・マイナスいずれも普通にありうることが明らかになった。分析の対象としたデータの背後にある日常の言語生活一般においても，そのようなものであろうと推測される。

一方，＜行動勧め＞＜挨拶＞＜感謝＞＜謝罪＞（＜感想表明＞）は，かなりプラス効果に傾くことが明らかになった。日常の言語生活一般においても，概してそのようなものであると推測される。しかし，マイナス効果も全く無いわけではないこともまたデータから明らかになった。

また，＜呼びかけ＞は，マイナス効果にいくぶん傾くことが明らかになった。日常の言語生活一般においては，プラスにせよマイナスにせよ，大きな効果をもたらすことなく用いられているのが普通であると推測されるが，効果が強い場合は，どちらかと言えばマイナス効果の方が多いということを反映しているのかもしれない。ただし，＜呼びかけ＞の場合，積極的に新聞に投書しようという場合は，プラス効果よりもマイナス効果を経験した時の方が多いとも推測されるので，確定的なことは言えない。

言語研究においてこれまでほとんど射程に入っていなかった「対人効果」という側面にまで，新聞投書欄をデータとして今回分析を試みたわけであるが，本データに関してだけでも，まだまだ課題は多い。本稿では，対人効果とは言え，プラス・マイナスの方向性を見るに留まったし，また，誰の発話であるか，誰に対する効果であるかという点も特に考慮しなかった。今後はこうした点についても，精密な分析を進めて行く必要がある。

また，今回データとして用いた新聞投書欄も，さまざまな制約から，データとしての片寄りが予想され，単純に日常の言語生活の縮図と見るわけにはいかない。日常生活では対人効果の点で中立的な発話の方がむしろ多く行な

われているであろうことからすると，今回のデータはかなり局所的な部分を拡大したものと考えられる。今後は，日常の言語生活の中からいかに＜効果＞を収集するかも，大きな課題である。

注　おもなデータソースとした「声」については，掲載された投書は，用字・用語の誤りや客観的事実（事件の起きた年など）の誤りを訂正することはあっても，それ以外については投稿者が書いたとおりに載せているとの回答を「声」編集部より得ている。本稿で問題にする「発話」と「対人効果」の記述についても，投稿者の表現が掲載の段階でリライトされるということは基本的に無いようである。

＜参考文献＞

尾崎喜光　1994　「対人効果の社会言語学」『日本語学』13-10.

尾崎喜光　1995 a　「発話がもたらす対人効果の研究(1)―投書におけるメタコミュニケーション行動の分析―」『国立国語研究所報告 110　研究報告集』16.

尾崎喜光　1995 b　「新聞投書欄を資料とした発話の対人的影響の分析」『日本グループ・ダイナミックス学会　第 43 回大会　発表論文集』.

杉戸清樹　1994　「事例データ収集の枠組み」　西原鈴子他著『在日外国人と日本人との言語行動的接触における相互「誤解」のメカニズム』（科学研究費報告書）.

付　記

本稿の概要を発表した国立国語研究所研究部会議（1995 年 10 月 18 日）では，同僚諸氏よりたくさんのコメントをいただいた。それにより，本稿を当初よりもより分かりやすい形に書き改めることができた(特に本稿の位置付けについて)。記して感謝申し上げる。ただし，筆者の非力ゆえに本稿に反映できず今後の課題としたコメントもある。

〈1〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人効果認識	述部末尾形式	対話行為の方法	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	発言語効果	実質行動効果	内容	行動	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	規模	他
1	あなたが	切符を渡す	行動依頼	[名]をちょうだい	○(友好的)?	相手	安堵	+					○	○					○		○	
2	あなたが	金曜日までに来る	行動依頼	[動]ていただきたい	○(友好的)	相手	うれしさ	+			○					○	?				○	
3	あなたが	おつりをあげるのを待つ	行動依頼	[動]ていてください	○(友好的)	相手	温まり	+		○	○								○			
4	あなたが	待つ	行動依頼	[動]ください	○(友好的)	相手?、第三者?	爽やかさ	+			○										○	
5	あなたたちが	席を詰める	行動依頼	[動]ください	○(友好的)[→○(友好的)][第3者]]	第三者	好感	+											○		○	
6	あなたが	待つ	行動依頼	[動]てください	○(友好的)	第三者	驚き(意外さ)/温かさ(地方の)	+		○	○								○		○	
7	あなたが	これで我慢する	行動依頼	[動]てください	○(友好的)?	第三者	うれしさ	+		○	○						○	○	○		○	
8	あなたが	たくさん大阪弁をしゃべる	行動依頼	[動]ね	○(友好的)	第三者	ありがたさ/感動(娘への配慮への)	+			○						○					
9	あなたが	早く二世をつくって両親を安心させる	行動依頼	[動]させてください	○(友好的)	第三者	危惧	−△			○							○				
10	あなたが	保証人になる	行動依頼	[動]てほしい	△(中立的)	相手	戸惑い/心配	−△			○					○						
11	あなたたちが	道をあけてあげる	行動依頼	[動]てあげてください	△(中立的)[→○(友好的)][第3者]]	第三者	ありがたさ	+			○					○		○	○		○	
12	あなたが	指差して注文しない	行動依頼	[動]ないでくれ	×(対立的)	相手	驚き(あきれ)/不愉快/店を出た(食べずに)	−			○	○?		○				○				
13	あなたが	帰る	行動依頼	[動]ください	×(対立的)	相手	冷たい感じ	−		○	○			○								
14	あなたが	重いもの(荷物)を出さないように言う	行動依頼	[動]て	×(対立的)	相手	あきれ(唖然)	−△			○					○						
15	あなたが	片づける	行動依頼	[動]てってください	×(対立的)	第三者	驚き&考えさせられ	−&△						○				○				
16	あなたが	もう一度調べる	行動依頼	[動]てください	×(対立的)	話し手	自責の念	−						○			○					
17	あなたが	それ(謝罪)を言わない	行動命令	[動]ないことね	○(友好的)	相手	うれしさ	+			○						○					
18	あなたが	学校へ来る	行動命令	[動]ように	○(友好的)	第三者	うれしさ	+			○						○		○			
19	あなたが	ほかの所に(ごみを)捨てる	行動命令	[動(命令)]	△(中立的)	第三者	心が暗くなる思い	−			○											
20	あなたが	頑張る	行動命令	[動]て来い	×(対立的)	相手	励まされ/頑張れた	+			○					○					○	
21	あなたが	静かにする	行動命令	[動]なさい	×(対立的)	第三者	うれしさ(他人への関わり)	+			○			○				○	○		○	
22	あなたが	つり革をこちらの方(投稿者)にかわってあげる	行動命令	[動]てあげなさい	×(対立的)?[→○(友好的)][第3者]]	第三者	ありがたさ/温まり	+		○	○							○	○		○	
23	あなたたちが	もっと詰めてこちらの方(投稿者)を掛けさせてあげる	行動命令	[動]させてあげなさいよ	×(対立的)?[→○(友好的)][第3者]]	第三者	ありがたさ	+		○	○			○				○	○		○	
24	あなたが	しつこう言わない	行動命令	[動]んじゃない	×(対立的)?[→○(友好的)][第3者]]	第三者	ありがたさ	+			○			○				○	○		○	

〈2〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人機能関連	述部末尾形式	対話行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	非言語効果	実質行動効果	内容	行為	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	感情	他
25	私が	あなたの入店を断る	行動命令	[名]	×(対立的)	相手	怒り	−			○						○					
26	あなたが	もう来ない	行動命令	[動]なよ〈禁止〉	×(対立的)	第三者	心の冷たさを感じる	−			○	○?		○			○					
27	あなたが	(演奏するのは)ダメだ	行動命令	[形動]だ	×(対立的)	第三者	不粋	−														○
28	あなたが	早く帰る	行動命令	[動(命令)]	×(対立的)	第三者	不愉快	−					○	○		○						
29	あなたが	ポケットから手を出す	行動命令?	[動]たらどうなの	×(対立的)	話し手	憐憫	−			○			○				○				
30	あなたが	私の駐車場を使う	行動勧め	[動]なさい	○(友好的)	相手	ありがたさ	+		○	○							○	○		○	
31	あなたが	私のテレホンカードを使う	行動勧め	[動]ていいですよ	○(友好的)	相手	ありがたさ	+		○	○							○	○		○	
32	あなたが	私の別のいい傘を使う	行動勧め	[動]にくいから	○(友好的)	相手	ありがたさ/気持ちが弾む	+		○	○							○				
33	あなたが	私の席の一部に鞄を置く	行動勧め	[動]てください	○(友好的)	相手	うれしさ	+		○	○							○	○		○	
34	あなたが	大根の葉を揚げと一緒に調理する	行動勧め?	[形]わよ	○(友好的)	相手	うれしさ/感激/温まり/懐かしさ	+										○			○	○
35	あなたが	欲しい物を買う	行動勧め	[動]なさい	○(友好的)	相手	うれしさ/忙しさの軽減/とうっとうしさの軽減/思いやりを感じる	+		○	○								○			
36	あなたが	遊びに来る	行動勧め	[動]たもんせ〈方言〉	○(友好的)	相手	なごみ/なつかしみ	+							○							○
37	あなたが	入試を頑張る	行動勧め	[動]てくださいね	○(友好的)	相手	温まり	+	○		○							○	○			
38	あなたが	私の手作りのうどんを食べる	行動勧め	[動]て行ってくれんか	○(友好的)	相手	感動	+		○	○							○	○			
39	あなたたちが	私たちの席へ座る	行動勧め	[名]にどうぞ	○(友好的)	相手	感動(人格的)/好感/温まり	+	○	○	○					○		○			○	
40	あなたが	私のお菓子を食べる	行動勧め	[名]をどうぞ	○(友好的)	相手	感動(他人に対する思いやりに)	+		○	○							○			○	
41	あなたが	風邪を引かないようにする	行動勧め?	[名]もな	○(友好的)	相手	感動	+	○		○					○		○				
42	あなたが	私の傘を使う	行動勧め	[動]てください	○(友好的)	第三者	ありがたさ	+		○	○							○	○		○	
43	あなたが	私の傘を持って行く	行動勧め	[動]て行きなさい	○(友好的)	第三者	ありがたさ/温まり	+		○	○							○	○		○	
44	あなたが	私の席へ座る	行動勧め	[動]ください	○(友好的)	第三者	ありがたさ(かけた負担を補ってくれたことを?)/恐縮	+		○	○						○	○	○		○	
45	あなたが	病院へ行って検査する	行動勧め	[動]たら?	○(友好的)	相手	不愉快/傷つき/プレッシャー	−			○						○	○				
46	あなたが	私のビニール袋と布切れを使う	行動勧め	[動]ください	○(友好的)	相手	気づき(優先的になすべきことの)	△		○	○							○	○		○	
47	あなたが	花束を受け取る	行動勧め	[名]どうぞ	○(友好的)	①相手、②第三者	①感動、②感動	①+、②+	○	○						○		○	○		○	
48	あなたが	大丈夫	情報要求	[形動]か?	○(友好的)	相手	うれしさ(この上ない)	+			○					○			○		○	
49	子供が	いる(=持っている)	情報要求	[名]は?	○(友好的)?	相手	プレッシャー	−			○						○	○				
50	この人が(→あなたが)	だれ(→自分の娘だとわかる)	情報要求	[疑]?	○(友好的)	第三者	屈辱感	−				○?										○
51	この寺が	百万遍念仏の法然様のお寺	情報要求	[名]でございますか?	△(中立的)	相手	うれしさ	+			○										○	

〈3〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人効果機能	述部末尾形式	対話行為の方向	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	非言語効果	実質行動効果	内容	行為	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	媒効	他
52	鈴木さんが	いる	情報要求	[名]いるかね？	△(中立的)	相手or第三者	驚き(態度変化に)	△			○		○			○						
53	あなたが	日本語がしゃべれる	情報要求	[動]ますか？	×(対立的)?	相手	驚き(質問されたことに)	△			○			○			○					
54	あなたが	どうした(＝何を困っている)	説明要求	[疑動]たの？	○(友好的)	相手	感動	＋		○	○							○	○		○	
55	(ごみを捨ててはいけない理由が)	どうして	説明要求	[疑副]ですか？	△(中立的)	相手	驚き(あきれ)	－				○?							○			
56	日本でポルノ漫画雑誌がどこでも売られ男性が平気で電車の中で読む理由が	なぜ	説明要求	[疑副]～[動]の？	×(対立的)?	相手	恥かしさ	－			○						○					
57	私が	何をした(＝何もしてない)	説明要求	[疑][動]んだ	×(対立的)	相手	恐れ	－	○			○?		○				○				
58	知らない人に声をかける理由が	なぜ	説明要求	[疑副]～[動]んだ	×(対立的)	第三者	理不尽な思い/心配	－			○?	?		○			○		○			
59	あなたたちが	何をしている(＝それをしてはいけない)	説明要求?	[疑][動]てんだ	×(対立的)	第三者	殺伐とした感じ	－					○	○								
60	あなたが	私を95歳まで働かせるつもりだ	確認要求	[動]せるつもりか？	○(友好的)	相手、話し手、第三者	笑い(冗談による)/なごみ	＋			○	○?										
61	あなたが	女性ではなく男性をよこしてくれるはずだ	確認要求	[動]てくれるんでしょうね	△(中立的)	相手	不愉快	－			○						○					
62	あなたが	若い女性に寄りかかられてもそんなに押し返す	確認要求	[動]のか？	×(対立的)	第三者	笑い/ストレスの減少	＋			○	○?		○					○			
63	あなたが	自分のものを自分で聴くのに文句がある	確認要求	[動]か？	×(対立的)	相手	情けなさ(ｶﾀﾜﾗ)/あきれ	－			○	○?							○			
64	あなたが	(何か悪い事をして大学を)やめざるを得なかったのだ	確認要求?	[動]たのでは？	×(対立的)	相手	憤り	－			○											
65	あなたが	どうだった(＝飲んで帰りが遅いことはなかった)	確認要求?	[疑]だったのですか？	×(対立的)	相手	やりこめられ	－△			○			○			○					
66	あなたが	私にもっとさわる	確認要求	[動]？	×(対立的)	①相手、②第三者、③話し手	①恥かしさ、②失笑、③満足＆恥かしさ	①－、②△、③＋＆－		○	○	○?						○	○			
67	「おじいちゃん」と呼ぶことが	失礼だ	同意要求	[形動]でしょう	○(友好的)?	第三者	うれしさ	＋	○		○			○								
68	あなたが(?)	解約の必要がない	同意要求	[形]でしょ	○(友好的)?	相手	立腹	－			○						○	○				○
69	あなたが	いいお母さんをもって幸せだ	同意要求	[形動]ね	×(対立的)	相手	くやしさ/不信	－			○						○		○			
70	(子供たちが歓声をあげて走り回ることが)	小さいからしょうがない	同意要求	[形]でしょ	×(対立的)	相手	立腹	－			○	○?		○					○			

〈4〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人的発話機能	述部末尾形式	対話行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	非言語効果	実質行動効果	内容	行動	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	接触	他
71	私が	(すでに)言った	同意要求	[動]たでしょ	×(対立的)	第三者	恐れ/不愉快、悲しさ	−				○	○	○				○				
72	(砂いじりが)	汚い	同意要求	[形]でしょ	×(対立的)	第三者	驚き？/自信喪失	−			○											
73	¢(?)	ぶつかったら謝るのが当然だ	同意要求	[形動]でしょ	×(対立的)	相手	賞賛(投稿者の過ちに対する毅然とした態度に)	△	○		○ ?							○			○	
74	私とあなたが	(動かなくなった車を)そこに入れる	行動勧誘	[動]ましょう	○(友好的)	相手	ありがたさ	+		○	○ ?								○			○
75	私とあなたたちが	一緒に(行動する)	行動勧誘	[副]	○(友好的)	第三者	優しく美しい感じ/なごみ	+				○ ?	○									
76	私とあなたが	じゅうじゅう館で焼肉を食べる	行動勧誘	[動]ようよ	△(中立的)	第三者	あきれ	−			○								○	○		
77	私が	車で送る	行動提供	[動]ましょう	○(友好的)	相手	ありがたさ(忘れがたい)	+	○	○	○							○	○			
78	私が	一緒に行く	行動提供	[動]ましょう	○(友好的)	相手	うれしさ/気持ちが明るくなる	+		○	○							○	○		○	
79	私が	車に乗せてあげる	行動提供	[動]てあげますよ	○(友好的)	相手	うれしさ/驚き	+		○	○							○	○		○	
80	¢(→私が)	(年賀はがきが)必要な方がいるかもしれない(→年賀はがきを受け取る)	行動提供	[動]かもしれませんから	○(友好的)	相手	親切(いつまでも忘れられない)	+		○	○								○			
81	私が	先導する	行動提供	[動]ましょう	○(友好的)	相手	優しさを感じた	+		○	○							○	○			
82	大家さんが	(ﾈﾊﾟｰﾙ人にアパートを貸すのを)いやがる	行動要求受入れ拒否	[動]んです	×(対立的)?	第三者	悲しさ	−			○											
83	¢	近くにお店がある	行動要求受入れ拒否	[動]ますから	×(対立的)	話し手	自責の念	−		○	○								○			
84	私が	時間がない	行動要求受入れ拒否	[形]	×(対立的)	相手	嘆き	−		○	○							○				
85	相模原へ行く電車が	次の電車だ	教示	[名]ですよ	○(友好的)	相手	うれしさ	+		○	○					○		○			○	
86	あなたのコートの裾が	さがっている	教示	[動]ています	○(友好的)	相手	うれしさ/温まり	+		○	○							○	○		○	
87	(ここが)	N駅だ	教示	[名]ですよ	○(友好的)	相手	温まり	+			○							○	○		○	
88	(手当てが)	手をこういう風に当てること	教示	[動]ということです	○(友好的)	相手	感動	+		○	○											
89	この郵便物が	局に届いた時から封があいていた	事実報告	[動]ていたんですが	○(友好的)	相手	爽やかさ	+	¢	¢									○		○	
90	私が	今日また新しい友達がたくさんできた	事実報告	[動]たよ	○(友好的)	第三者	感動	+			○			○		○						
91	ここが	私の畑だ	事実報告	[名]です	△(中立的)	相手	感動(畏敬の念)	+			○											
92	私が(?)	みんなに(夕刊が入っていたか)聞いていた	事実報告*	[動]ていました	△(中立的)	相手	感動	+	○		○											

〈5〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人効果話機能	述部末尾形式	対話行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	非言語効果	実質行動効果	内容	行動	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	規範	他
93	(無事三途の川を渡れたかと聞いた理由が)	棺おけに補聴器を入れなかったから渡し守から『六文』と言われても聞こえずまだうろうろしているかもしれない	説明提供	[動]ているかもしれない(から)	○(友好的)	相手	うれしさ	+			○											
94	(多国籍軍に参加しない理由が)	憲法で決められている	説明提供	[動]られているからだ	△(中立的)	相手	驚き(日本の方針に対する)/賞賛(日本の方針に対する)	+			○											
95	(入館できない理由が)	規則だ	説明提供	[名]なので	△(中立的)?	相手	驚き(発話から知られる図書館の方針に)	−			○											
96	(80歳が「年寄り」の理由が)	年金がもらえる	説明提供	[動]から	△(中立的)	相手	不愉快	−			○											
97	(通知表を燃やした理由が)	毎日嫌とも言わず元気に登校したあの子の評価を１だの２だのではあらわせない	説明提供	[動]ませんもの	△(中立的)	相手	打ちのめされ	−?			○						○					
98	(ばんそうこうを張らない理由が)	治るのが遅い	説明提供	[形]から	△(中立的)	相手	驚き(変化に)	△			○					○						
99	(旅館の予約を断った理由が)	女性一人客は自殺(しようとしている可能性がある)	説明提供	[名]とかねえ(あるから)	×(対立的)?	相手	驚き(考え方の古さに対する)/怒り	−		○	○											
100	私の健康が損なわれた理由が	お母さんが料理を手抜きした	説明提供	[動]われたのだ	×(対立的)	第三者	言語道断という思い	−			○					○	○					
101	私の健康が損なわれた理由が	お母さんが料理を手抜きした	説明提供	[動]われたのだ	×(対立的)	相手	愕然/自責の念	−△			○											
102	私が	千円貸す	物品提供	[動]ます	○(友好的)	相手	ありがたさ	+		○	○							○	○		○	
103	私が	(交番に届けたボールペンを)君にやる	物品提供	[動]よ	○(友好的)	第三者	衝撃	−			○					○	○					
104	¢	こんにちは	挨拶	こんにちは	○(友好的)	相手	うれしさ/すがすがしさ/気持ち良さ	+	○					○				○			○	
105	¢	コンニチワ！	挨拶	こんにちは	○(友好的)	相手	感激	+	○							○		○			○	
106	¢	今日は	挨拶	こんにちは	○(友好的)	相手	勇気づけ(後の)	+						○				○	○		○	
107	¢	お帰りなさい	挨拶	お帰りなさい	○(友好的)	相手	なごみ/疲労回復	+								○			○		○	
108	¢	おいでやす	挨拶	おいでやす〈方言〉	○(友好的)	相手	感動(言葉の美しさへの)	+					○?		○							
109	¢	～へようこそ〈英語で〉	挨拶	ようこそ〈英語で〉	○(友好的)	相手	不安解消/リラックス	+			○								○			
110	¢	すみません	挨拶	すみません〈呼びかけ〉	○(友好的)	相手	好気分	+										○	○		○	
111	¢	オシマイナサイ	挨拶	おしまいなさい〈方言〉	○(友好的)	話し手	うれしさ	+							○							○
112	¢	ハロー	挨拶	ハロー	×(対立的)	第三者	不愉快	−							○?				○		○	
113	¢	ありがとう	感謝	ありがとう	○(友好的)	相手	感動	+				○							○			
114	¢	ありがとう	感謝	ありがとう	○(友好的)	相手	感動/かわいらしく感じる	+	○							○					○	

〈6〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人的発話機能	述部末尾形式	対者行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	非言語効果	実践行動効果	内容	行為	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	複数	他
115	¢	ありがとう	感謝	ありがとう	○(友好的)	相手	希望感(この世への)	+	○					?		○					○	
116	¢	ありがとう	感謝	ありがとう	○(友好的)	相手	照れ/かわいらしく感じる/爽やかさ	+								○					○	
117	¢	ありがとう	感謝	ありがとう	○(友好的)	相手	新鮮さ(地域社会での存在意義が確認できて?)	+				○				○						
118	¢	ありがとうございました	感謝	ありがとうございました	○(友好的)	相手	気持ち良さ	+				○						○				○
119	¢	誘ってくれてありがとう	感謝	てありがとう	○(友好的)	相手	感動(大切な事を教えられた)	+				○										○
120	¢	話しかけてくれてありがとうね	感謝	てありがとうね	○(友好的)	相手	感動(年齢に似合わぬ素直さに)	+				○				○						○
121	¢	～どうもありがとうございました	感謝	ありがとうございました	○(友好的)	相手	うれしさ/感動/明るさ/温まり	+	○			○		○			○		○			
122	¢	～ご愛顧ありがとう	感謝	ありがとう	○(友好的)	相手	なごみ	+											○		○	
123	¢	サンキュウ<英語>	感謝	サンキュウ<英語>	○(友好的)	相手	温まり/照れ/心がくすぐったい気分	+						○					○		○	
124	¢	大変ありがとうございました	感謝	ありがとうございました	○(友好的)	相手?、第三者?	うれしさ	+	○			○					○					
125	¢	サンキュウ<英語>	感謝	サンキュウ<英語>	○(友好的)	第三者	なごみ/明るくする	+										○			○	
126	¢	応援ありがとうございました	感謝	ありがとうございました	○(友好的)	第三者	感動	+				○							○			
127	¢	ありがとうございます	感謝	ありがとうございます	○(友好的)	第三者	感動(美的)	+				○										
128	¢	教えてくれてありがとう	感謝	てありがとう	○(友好的)	相手	恥かしい(自分で自分が)	−△				○				○	○					
129	¢	○○さん<名前＋さん>	呼びかけ	○○さん<名前＋さん>	○(友好的)?	第三者	うれしさ?【明示されず（プラス効果であることは確か）】	+					○				○					
130	¢	○○さん<名前＋さん>	呼びかけ	○○さん<名前＋さん>	○(友好的)?	第三者	好感	+					○									
131	¢	Excuse me	呼びかけ	Excuse me ～	○(友好的)	相手	ありがたさ＆寂しさ(発話主体＝非日本人)	+＆−		○	○					○		○	○		○	
132	¢	先生先生	呼びかけ	先生先生	○(友好的)	第三者	気になる	−△					○				○					
133	¢	伯爵婦人	呼びかけ?	伯爵婦人	○(友好的)	相手	うれしさ	+					○				○					
134	¢	七郎君たち	呼びかけ?	七郎君たち	○(友好的)	第三者	気掛かり(非人格的呼称)	−					○									
135	¢	おばあさん	呼びかけ	おばあさん	△(中立的)?	相手	不愉快	−					○				○					
136	¢	オバアちゃん	呼びかけ	おばあちゃん	△(中立的)?	相手	気落ち/波入り	−					○				○					
137	¢	おばあちゃん	呼びかけ	おばあちゃん	△(中立的)?	相手	不愉快	−					○				○?	○				
138	¢	おじいちゃん	呼びかけ	おじいちゃん	△(中立的)?	相手	立腹/不愉快	−					○			○						
139	¢	そこの女	呼びかけ	そこの女	×(対立的)	相手	人格無視	−					○									
140	¢	どうもすみません	謝罪	すみません	○(友好的)	相手	爽やかさ	+											○		○	

〈7〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人効果認識	述部末尾形式	対話行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	発言語効果	実質行動効果	内容	行動	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	関係	発話	他
141	¢	お待たせしてすみません	謝罪	てすみません	○(友好的)	相手	なごみ	+	○									○			○	
142	¢	おそくなりました	謝罪	[形]なりました	○(友好的)	第三者?、相手?	感動	+								○					○	
143	¢	すみません	謝罪	すみません	○(友好的)	第三者?、相手?	感動(道徳的：周囲の人たちへの心遣い)	+				○							○			
144	¢	ごめんなさいごめんなさい	謝罪	ごめんなさいごめんなさい	○(友好的)	相手	痛々しさ	−				○				○						○
145	¢	急いでいるからごめんよ	謝罪	ごめんよ	○(友好的)	①相手、②第三者	①うれしさ、②うれしさ＆感激	①+、②+		○								○	○		○	
146	¢	ご苦労さまです	慰労表明	ご苦労さまです	○(友好的)	相手	勇気づけ	+										○	○		○	
147	¢	ご苦労さまです	慰労表明	ご苦労さまです	○(友好的)	第三者	感動(あたたかさ)＆みじめさ	+＆−(実質行動に)		○								○			○	
148	¢	どうもご苦労さまです	慰労表明	ご苦労さまです	○(友好的)	相手	心地よさ＆困惑	+＆△				○				○					○	
149	あなたが	良い子だ	評価表明	[名]だね	○(友好的)	相手	うれしさ	+	○		○?											
150	あなたが	男前に(写真が)とれている	評価表明	[動]てるじゃあないか	○(友好的)	第三者	うれしさ	+	○		○						○				○	
151	あなたが	かわいい	評価表明	[形]ね	○(友好的)	第三者	うれしさ/救われる思い	+			○								○			○
152	あなたが(?)	大好き	評価表明	[形動]	○(友好的)	相手	なごみ	+			○					○			○			
153	あなたの作った弁当が	おいしかった	評価表明	[形]たよ	○(友好的)	相手	なごみ/明るくする/働く意欲	+		?	○										○	
154	あなたたちが	だれよりもかわいい	評価表明	[形]のよ	○(友好的)	相手	安堵	+			○					○						
155	あなたが	すごい	評価表明	[形]わ	○(友好的)	相手	感動(自分の働きの確認に対する)	+			○						○?					
156	あなたが	うまくなった	評価表明	[形]なったね	○(友好的)	相手	救われる思い/明日へのファイト	+			○?						○		○			
157	あなたが	字がきれい	評価表明	[形]	○(友好的)	相手	自信/やる気/成績優秀(?)	+		○	○						○					
158	あなたが	(自由研究が)よくできた	評価表明	[動]ました	○(友好的)	話し手[書き手]	恥かしさ(自分で自分が)/自省	−			○						○					
159	家族そろってカウチでテレビを見る生活が	最も楽しい	評価表明	[形]	△(中立的)	相手	ショック(チャレンジ精神のない個人主義に)	−			○											
160	あなたが	くそばばあ	評価表明	[名]	×(対立的)	相手	困惑/恐れ/苦笑	−	○				○					○				
161	あなたが	何をやらせてもダメ	評価表明	[形動]	×(対立的)	相手	自信喪失	−			○											
162	あなたが	音痴だ	評価表明	[名]です	×(対立的)	相手	自信喪失/ショック?/落込み?	−			○								○			
163	あなたのつきあいが	ナンセンスだ	評価表明	[名]ですよ	×(対立的)	相手	怒り	−			○											
164	あなたの夫の仕事が	アルバイトのようなものだ	評価表明	[名]のようなものだ	×(対立的)	相手	悲しさ	−		○	○											

〈8〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人的発話機能	述部末尾形式	対者行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	発言認効果	実現行動効果	内容	行為	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	感動	他
165	あなたが	若づくりしたクソババアだ	評価表明	[名]	×(対立的)	相手	立腹/くやしさ	−			○		○					○				
166	私が	今日は朝からついていない	認識表明	[動]てないんだ	○(友好的)?	相手	なごみ	+	○		○?	○?							○		○	
167	私が	わかった	認識表明	[動]ました	○(友好的)	相手	安堵/気分の良さ	+								○					○	
168	私が	あなたに感謝している	認識表明	[動]てるよ	○(友好的)	相手	うれしさ/感動	+			○					○						
169	お礼を言うべき人が	こっちの方だ	認識表明	[名]だぜ	○(友好的)	相手	感動	+			○					○						
170	私が	世の中に甘えてダメになっていただろう	認識表明	[動]ていたと思う	○(友好的)	相手	胸のつかえがとれた	+			○					○	○					
171	タンポポが	寝んねだ	認識表明	[形動]	△(中立的)	相手?、第三者?	感激(愛らしさに)	+			○?					○						
172	身障者が	遺伝だ	認識表明	[名]だってね	×(対立的)	相手	絶句/断絶感	−	○		○			○			○					
173	何十年も家事をして子供を大勢育ててきたことが	(勤める)資格だ	判断表明	[名]ですよ	○(友好的)	相手	うれしさ	+			○						○					
174	私が	大丈夫だ	判断表明	[形動]です	○(友好的)	相手	うれしさ(喜ばれたことに対する)	+													○	
175	私が	子育て真っ最中で買うことができない	判断表明	[動]ことができません	○(友好的)	相手	気持ち良さ	+	○	¢	○											
176	あなたの死んだあかちゃんが	自分が短い命と知っていてその間一番幸せに暮らせる所を選んでこの家に生まれてきた	判断表明	[動]てきんだと思う	○(友好的)	相手	救われる思い	+			○						○?					
177	そんなこと(長い間家のために一生懸命働いてくれたのだから安心してゆっくり養生する)が	ない(＝したくない)	判断表明	[名]はない	○(友好的)	相手	心にしみる思い	+	○		○					○						
178	あなたの歯が痛いことが	今まで一生懸命に生きてきた証拠だ	判断表明	[名]ですからね	○(友好的)	相手	悲観的な気持ちの和らげ/慰め	+			○						○?					
179	あなたが	大丈夫だ	判断表明	[形動]よ	○(友好的)	第三者	感動/温かさ	+		○	○							○	○		○	
180	ここ(教習所)でバッチリやることが	道路で一人で運転する時きっと役立つ	判断表明	[動]さ	○(友好的)	相手	うらやましさ(肯定的考え方に)	△			○					○?						
181	スコッチウイスキーが	(日本への土産として)喜ばれる	判断表明	[動]れる	○(友好的)	話し手	後味の悪さ/後悔	−			○						○					
182	(子供が部屋中おもちゃを散らかすことが)	病気で寝ているよりましだ	判断表明	[動]ているよりましだよ	△(中立的)	相手	気持ちの切り替え/頑張り	+			○											
183	そんな(中耳炎の)時が	(ユキノシタを使わないで)お医者さんに行けばいい	判断表明	[動]ばいいじゃない	△(中立的)?	相手	苦笑(現代的な考え方に)	△			○											
184	世帯主が	表紙だ	判断表明	[名]です	△(中立的)	相手	納得(考え方に)	△			○											
185	名古屋が	田舎なので(名所は)何もない	判断表明	[疑]もないわ	△(中立的)?	相手	残念(地元を誇りとしないことを)	−			○					○						

〈9〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人的発話機能	述部末尾形式	対話行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	発言認効果	実質行動効果	内容	行動	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	規制	他
186	女性の方がもっと芸能活動を控えて妻業や母業に専念することが	破局に至らなかった	判断表明	[動]なかったのでは	△(中立的)	第三者?、相手?	不愉快	−			○											
187	(パスポートが)	(本人証明に)ならない	判断表明	[動]ません	×(対立的)?	相手	不納得(答えに)	△						○								○
188	あなたが	子供がいる	判断表明	[動]だろうに	×(対立的)	相手	ショック(くやしさ?)	−			○						○					
189	ここ(花嫁の化粧室)が	あんた(弟)たちの来る所じゃない	判断表明	[名]じゃないんだよ	×(対立的)	第三者	驚き(あきれ)/幻滅	−					○			○						
190	(愚痴まじりのくどくどとした訴えが)	僕に言っても仕方がない	判断表明	[形]だろう	×(対立的)	第三者	身が縮む思い	−						○			○					
191	彼女(投稿者)が	トシだから生臭い物が好きだ	判断表明	[形動]なんだ	×(対立的)	第三者	不愉快	−			○											○
192	あなたが	ボランティアをやることもない	判断表明	[動]ませんから	×(対立的)	相手	落胆	−			○						○					
193	(不明)	身体障害者みたいだ	判断表明	[名]みたい	×(対立的)	第三者?、相手?	心の痛み	−【+からの訂正】			○						○					
194	副作用のない薬が	ない	判断表明?	[名]なんかない	×(対立的)	相手	恐れ	−						○								
195	あなたがけさうまく(便が)出たことが	よかった	感想表明	[形]たねえ	○(友好的)	第三者	うれしさ(うれし泣き)	+			○			○			○					
196	(あなたの紛失物が見つかったことが)	ほんとうに良かった	感想表明	[形]たねえ	○(友好的)	相手	うれしさ(喜んでくれたことに対して)	+			○					○		○				
197	あなたがいないことが	寂しい	感想表明	[形]のだ	○(友好的)	相手	うれしさ(貴重なことを教わった)/温まり	+			○					○						○
198	(点字部の部員の質問が)	自然でうれしかった	感想表明	[形]たですよ	○(友好的)	相手	安堵	+			○					○						
199	(孫が帰ったことが)(?)	これから寂しくなる	感想表明	[形]くなるね	○(友好的)	相手	温まり(共感される)/優しさ/尊敬の念	+	○		○							○	○?		○	
200	(道を開けさせてもらったことが)	感謝の気持ちでいっぱいだ	感想表明	[名]でした	○(友好的)	相手	感激	+			○							○			○	
201	(あなたと)すばらしい出会いが出来たことが	とても幸せだ	感想表明	[動]ております	○(友好的)	相手	感動(対人的)	+		○	○							○			○	
202	(英国人マネージャーが離日する)本日が	私たちにとって正にラッキー・デーだ	感想表明	[名]ですね	○(友好的)	相手	笑わせ(ユーモア)	+			○								○			
203	あなたが	精薄なのによく頑張る	感想表明	[動]な<感嘆>	○(友好的)	相手	つらさ	−					○				○					
204	(スケッチブックの上に土を飛び散らされたことが)	いい(=気にしていない)	感想表明?	[形]んです	○(友好的)	話し手	くやみ	−			○?	○?					○					

〈10〉　新聞投書欄による発話の対人効果のデータ

	主部内容	述部内容	対人的発話機能	述部末尾形式	対者行為の方向性	効果先	効果(抽象)	効果(+-)	非言語効果	実践行動効果	内容	行動	形式	調子	コー	主体	相手	関係	場面	媒体	規模	他
205	私たちが	(ボランティアの)活動が楽しくできた	感想表明	[名]できた	△(中立的)	相手	感動?	+			○											
206	あなたが	暇だ	感想表明	[名]だね	×(対立的)	相手?、第三者?	驚き(あきれ)	−			○			○		○						
207	(あなたの)だんなが	夜遅くまで出かけていても何も言わない	感想表明	[動]ないな〈感嘆〉	×(対立的)	第三者	不愉快	−			○											○
208	私が	あなたを信じる	意志表明	[動]ましょう	○(友好的)	相手	うれしさ	+	○		○								○			
209	私が	調べて掲示する	意志表明	[動]ておきます	○(友好的)	相手	好感/親切/好印象/すきっとした気持ち	+		○	○											
210	私が	一円玉をあずかる	意志表明	[動]いたします	○(友好的)	相手	うれしさ/ほのぼの感	+		○	○								○			
211	私が	(この子＝投稿者と)いっしょに帰る	意志表明	[動]ますよ	△(中立的)[→○(友好的)][第3者]	第三者	安堵(助かって)/ありがたさ(援助)	+		○								○	○		○	
212	私が	(あなたの席譲りは)いい(＝いらない)	意志表明	[形]です〈断り〉	×(対立的)	第三者	驚き	−		○		○?						○				
213	あなたが	足を踏んだのに謝らない	事実表明	[動]もしない	×(対立的)	①第三者、②相手	①恐れ、②恐れ?	−			○			○								
214	私が	(あなたたちの)父さんの母じゃない	事実表明	[名]じゃない	×(対立的)	話し手	みじめさ	−			○											
215	(払い戻しが)	○○円だ	事実表明	[名]ね	×(対立的)	相手	不愉快	−	○	¢		○?										○
216	あなたが	早くよくなる	希望表明	[動]てください	○(友好的)	相手	感激/励まし	+			○			○			○					
217	(年寄りが)	先が短いのだから(車に)ひかれて死んでしまえばいい	希望表明	[動]じまえばいいんだよ	×(対立的)	第三者	体の震え/不愉快	−			○											
218	私が	(あなたの子供が)うるさくて聞こえない	状況表明	[動]やしない	×(対立的)	相手	心外/悲しさ	−	○		○								○			
219	¢	そうだそうだ	同意表明	[応答]	×(対立的)	話し手	恥かしさ	−			○											
220	¢	ガイジンや	認知表明	[名]や〈方言〉	×(対立的)	第三者	不愉快	−	○		○								○			
221	¢	うんうん	応答	[応答]	○(友好的)?	相手	がっかり(事柄の説明は丁寧にできるだけに)	−					○					○				
222	¢	うん	応答	[応答]	○(友好的)?	相手	非礼	−					○					○				
223	私の店が	はしを置いていない	応答	[動]ていません	×(対立的)	相手	落胆	−		○	○?	○?							○			
224	私が	(あなたを)賞する	宣言	[動]ます	○(友好的)	相手	うれしさ	+			○											
225	あなたが(汚れを)拭くことが	いい(＝十分だ)	謝罪受入れ	[形]のよ	○(友好的)	相手	うれしさ	+	○		○								○			
226	あなたの「すみません」が(?)	(何にもならない)(?)	謝罪受入れ拒否	なにがすみませんだ	×(対立的)	相手	とまどい(?)	−			○							○				